災害復旧事業設計業務委託の業務報告書（成果品）に関する特記仕様書

第１　本特記仕様書の対象業務

　本特記仕様書の対象業務は以下の全てに該当する業務とし、業務報告書（成果品）を簡素化できるものとする。

１　「災害又は事故における測量設計等業務委託に関する協定書」及び「災害又は事故における設計等業務委託に関する協定書」に基づき行った設計業務

２　災害復旧事業のうち、復旧する施設が安定計算などを必要としない構造物であり、査定申請内容が、ブロック積工、かごマット工、じゃかご工、根継工などの設計業務

なお、本特記仕様書の対象業務については、共通仕様書ではなく本特記仕様書を適用するものとする。

第２　業務報告書（成果品）の簡素化

　設計業務の報告書（成果品）を簡素化する場合には、以下の内容を端的に記載し、まとめるものとする。

１　設計業務成果概要書（災害版）

設計業務成果概要書のまとめイメージは、次頁「第２の１」を参照すること。取りまとめ枚数は、Ａ４で８ページ又はＡ３で４ページ程度を想定している。

　①　土木事務所管内における被災箇所の位置図

　②　被害概要（被災構造物の原形、被災延長、被災の程度等）

　③　被災のメカニズム（現地踏査、上下流の状況、被災原因、被災メカニズム、被災水位及び設計流速）

　④　復旧工法（起終点、縦断計画、最深河床高の評価高及び工法比較検討）

　⑤　仮設計画（工事用仮設道路、仮排水及び仮締切等）

２　災害査定で使用するために作成した資料

①　査定の野帳

②　「美しい山河を守る災害復旧基本方針」ＡＢ表等

③　査定設計書に添付した設計図面及び写真一式

④　仮設管渠等の検討に必要な流量計算書や工法比較検討等に使用したバックデータとなる資料

３　現地踏査写真等

４　打合せ簿（添付資料は除く）

第２の１　設計業務成果概要書（災害版）の想定イメージ

位置図

被災概要

・被災構造物の原形

・被災延長

・被災の程度

・写真　等

被災のメカニズム

・現地踏査

・被災原因

・被災メカニズム

被災のメカニズム

・上下流の状況

（直線部or湾曲部、落差工や帯工の有無、

護岸or土羽護岸、築堤or掘込　等）

・被災水位及び設計流速

（被災水位の証拠）

復旧工法

・復旧工法

・ＡＢＣ表の評価と考え方、復旧工法との関連性

・工法比較表

・根固めブロック重量算出及び必要列数の算出根拠

など

計画概要全体まとめ（平面図or航空写真等に表示）

仮設計画

・仮排水、仮締切の考え方（現場条件等）

・施工時流出量の算出

・仮排水断面の検討

復旧工法

・起終点決定理由・根拠

・縦断計画

・最深河床高の評価高と考え方